

今、なぜ ローカルSDGsが必要か。



～暮らしを支える森里川海から考える～

地域においてSDGsにどのように取り組み、活性化に結び付けるかを構想するとき、自然資源が豊かな地域と都市部との循環の創出が大きな力になります。ローカルSDGsの意義と必要性、仕組み作りについて、自然資源豊かな現場とつながって考えます。

第2回

四国西予ジオパーク編

2020年12月20日(日)

13:00～16:00

西予市宇和文化会館 中ホール
&オンライン(Zoom)開催

■開会 開会挨拶

西予市長 菅家 一夫 氏

●基調講演

「ジオパークから考える環境・経済・社会」

新名 阿津子 氏 (伊豆半島ジオパーク推進協議会
専任研究員)

●事例報告

<愛媛県 西予市> 四国西予ジオパーク推進協議会
一般社団法人ノヤマカンパニー

<徳島県> コウノトリ定着推進連絡協議会

<香川県> 横山 昌太郎 氏 (森林インストラクター、
博士(農学))

<高知県> 株式会社四万十ドラマ

●意見・情報交換

情報提供 「ローカルSDGs四国(LS四国)について」
意見交換

■閉会 閉会挨拶

酒向 貴子 氏 (環境省中国四国地方環境事務所
四国事務所長)

自然資源の保全保護と活用、環境に配慮した観光実践、大学と地域の連携、若年層や女性が活躍できる場の創出、グリーン経済など、国内外のジオパークで行われる様々な活動事例を紹介しながら持続可能な開発について考えます。



新名 阿津子 氏

伊豆半島ジオパーク推進協議会 専任研究員 高知県生まれ。2009年筑波大学大学院修了。博士(理学)。専門は経済地理学・ジオパーク研究。鳥取でシンクタンク研究員、大学准教授を経て、2018年から現職に。主な著書に『経済地理学への招待』(分担、ミネルヴァ書房)、『中部・中国・四国のジオパーク』(編著、古今書院)などがある。

【主催】 環境省四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)

【協力】 中国四国地方環境事務所四国事務所、四国生物多様性ネットワーク

【後援】 ESD活動支援センター、四国地方ESD活動支援センター

第1回: 宿毛市、土佐清水市、四万十市、大月町、三原村、黒潮町 / 第2回: 西予市

四国西予 ジオパーク 推進協議会

【報告者】
事務局長
高橋 司 氏

(愛媛県西予市)

西予市は海拔0mから標高1,400mの標高差を誇り、貴重な地質や地形、歴史、文化、生態系など、数多くの地域資源を有しています。その魅力を最大限に引き出す仕組みが「ジオパーク」。市民が地域への誇りや愛着を醸成しながら地域活性化を図るとともに、社会的、経済的、文化的に持続可能な発展を目指すため、行政、関係機関、市民団体などが連携してジオパーク事業及び活動を推進しています。

一般社団法人 ノヤマ カンパニー

【報告者】
代表理事
加藤 雄也 氏

(愛媛県西予市)

2016年、任意団体として森のようちえん活動をスタートさせたことを契機に、地域の自然を活かした事業を展開中。根っこにあるのは、「この場所ならではの教育や子育てをやりたい」「自然と共存したすこやかで持続可能な社会を実現したい」という想い。地域の自然や文化、生活の知恵などを謙虚に学び、それをもとに今の時代にあった暮らしをつくっていく—そんな取組を進めています。

コウノトリ 定着推進 連絡協議会

【報告者】
理事・事務局長
柴折 史昭 氏

(徳島県)

コウノトリと人が共存できる環境の創造を目指して取組を進めています。今年度は、NPO法人とくしまコウノトリ基金の会員と地域を連携させたローカルSDGs(地域循環共生圏)ビジネスづくりに向けたしくみづくりや、地域資源をパッケージにしたエコツアーのビジネスモデルづくり等の取組を展開しています。

森~心~人を つなぐ ガイドツアー

【報告者】
横山昌太郎 氏
森林インストラクター、博士(農学)

(香川県)

持続可能な社会とするためには、より地方に軸足をおいたライフスタイル・ワークスタイルが必要と感じています。地方における複業・兼業の一つとして「ガイド業」は可能性の高い仕事の一つと思いますが、社会状況や災害の影響を受けやすい面もあります。「森」のイメージがほとんどない香川県で、かつ「地元の方」を対象とした「森から生き方・社会のあり方を学ぶ」ツアーをしています。

株式会社 四万十ドラマ

【報告者】
代表取締役
畦地 履正 氏

(高知県)

四万十ドラマのコンセプトは「ローカル」「ローテク」「ローインパクト」。自分たちのあしもとにあるものを生かしながら四万十川に負担をかけないものづくりを行っています。私たちが商品の中に込めているのは四万十に生きる人々や山川田畑、沈下橋のある風景や、ユタカさとは何かということ。この地から新しい環境観光産業を発信していきます。

